

2024年度 事業報告

1. 法人全体

① 各事業の展開

通所部 みどり福祉ホーム生活介護事業 地域活動支援センターデイ型事業（休止中）
 みどり福祉ホームにじいろ（生活介護事業）
生活支援部 一時ケア事業 ショートステイ事業 余暇活動事業
地域交流部 訓練会支援 地域支援 広報発行 2 回

② 職員の雇用 人材育成

研修委員会を設置し、利用者への援助技術及び福祉に関する専門知識の習得・向上に努めることのできる人材育成を目指しました。

ケースによりオンラインと対面を使い分け、外部研修に積極的に参加しています。

職員の腰痛予防とメンタルヘルス向上のため、スタッフ向けヨガを各事業所2か月に1回のペースで行いました。常勤職員の参加は多いのですが、3・4号職員の参加がほとんどなのが課題です。

③ 苦情・事故防止対策

事故・苦情報告は 5 件（ホーム3、にじいろ1、生活支援1）
ヒヤリハット報告 15 件（ホーム5、にじいろ10、生活支援0）
詳細は生活介護事業部、生活支援事業部で記載

④ 防災対策

みどり福祉ホームでは地域防災拠点で行われる地域の防災訓練にあわせ通所利用者、職員がライフライン停止訓練を行いました。東日本大震災発生から10年を超え、新型コロナウイルス感染症を経験し、事業継続計画を策定しました。福祉避難所のシミュレーションなど、今すぐ取り組みなければならない課題もみえています。一方、法人も職員も日々の業務に追われ、災害の記憶が風化してきているのも事実です。2024年1月の能登半島地震の報道に触れてもおお、自分事として防災に向き合う雰囲気になっていないことに危機感を感じます。

④ 具体的内容（その他、保健衛生委員会など実施）

	法人全体	研修委員会	防災委員会
4 月	毎月 1 回 事業委員会@みどり福祉ホーム 法人運営会議@にじいろ若しくは ZOOM 開催 年 4 回 家族会@みどり福祉ホーム 職員健康診断開始	随時 書籍の購入、紹介	
5 月	総会、理事会、運営委員会開催 (内容)2023 年度事業・決算・監事監査報告他		
6 月			防災計画の見直し
7 月			
8 月			
9 月			
10 月			

11 月	地域防災拠点の防災訓練に利用者と参加 理事会、運営委員会開催 (内容)2024 年度上半期事業・会計報告		備蓄品の見直し
12 月	冬期休暇 (29 日～)		
1 月	冬期休暇 (～3 日)		
2 月	理事会 (内容) 理事長退任、選任		
3 月	理事会、運営委員会開催 (内容)2025 年度事業計画・予算 事務処理日 (半日、31 日午後)		夕方避難訓練

⑤ 今後の課題・展望

2024 年 4 月、特別支援学校を卒業した新入利用者を、みどり福祉ホームで 1 名、お迎えしました。2023 年 3 月みどり福祉ホームを退所した利用者を、2024 年 4 月みどり福祉ホームにじいろで受け入れました。

今年度も利用者の体調不良、入院、医療的ケアの重度化が多くみられました。長くみどり福祉ホーム、みどり福祉ホームにじいろで共に過ごした利用者が、1 名入所施設に入所し、1 名お亡くなりになりました。みどり福祉ホームの利用者が体調不良により入院し、退院後も在宅生活を余儀なくされています。

新しい 5 か年計画に基づき、現在、新しい在宅生活の在り方の勉強会や、新しい事業の立ち上げの検討を行っています。グループホームの立ち上げは、土地探しと職員の雇用という難しい問題は残っていますが少しずつ実現に向かっています。

石橋勝廣氏が理事長を退任し太田幸弘氏が新しい理事長に就任しました。

長年動きの少なかった常勤職員ですが、みどり福祉ホームの男性常勤職員が 2024 年 3 月退職しました。みどり福祉ホームにじいろの男性ヘルパーが、常勤職員にチャレンジしてみたいと言ってくれ、2024 年 4 月より常勤職員として雇用しました。

横浜では重度重複障害の生活や医療的ケアのある方の災害時避難、機能的強化型活動ホームの在り方などの検討が行われています。全て抜本的な解決が難しい問題で、私たちも意見を求められたいと思っています。みどり福祉ホームは決してあきらめることなく日々の活動の中でそれらの課題にひとつずつ答えを出していかなければと考えています。

2. 生活介護事業部

①事業内容

○法人理念の「重い障害のある人が、地域の中で自分らしくいきいきと生きる」を念頭に、一人の人間として、また、地域社会の一員として、その人間性を尊重し、自己決定に基づいた、各々の自己実現を共に追求している場を保障し、その為に一人一人のＱＯＬ（生活の質）の向上を目指し、豊かでいきいきとした生活ができるように支援をすることを目指しています。

月	利用者	会議・研修会 他
4月	●個別支援計画書の契約 ●利用者会（月1回） ●嘱託医による診察（月1回） ●健康チェック（月1回） ●理学療法の実施（一人につき月1回） ●新入利用者歓迎会 ●計画相談（契約・モニタリング）の継続的实施 ●嘱託医による医療面談（年1回）	●家族会（3カ月に1回） ●法人職員会（月1回） ・サービス担当者会議（月2回） ●スタッフヨガ（ホーム・にじいろ隔月） ●職員・ヘルパー健康診断の実施（年1回）
5月	●歯科医師による摂食指導（ホーム）	●事業委員会・運営委員会・理事会 ●運転講習
6月	●健康診断の実施（ホーム・にじいろ） ●歯科医師による歯石除去（ホーム） ●避難訓練実施（にじいろ）	●事業委員会 ●横浜市障害者支援センターによる監査
7月	●消防士立ち合いによる避難訓練実施（ホーム） ●若葉台特別支援学校で卒後の暮らしについて講演（にじいろ）	●家族会 ●事業委員会 ●将来計画策定員分科会（GH・在宅）
8月	●歯科医師による歯石除去（ホーム） ●歯科医師による摂食指導（にじいろ）	
9月	●歯科医師による、歯石除去（にじいろ） ●みどりの家にて脳波検査の実施（ホーム・にじいろ）	●事業委員会 ●将来計画策定員分科会（GH・在宅） ●ライトセンターによる研修
10月	●赤い羽根共同募金活動（にじいろ） ●ハロウィンイベント（ホーム）	●将来計画策定委員会代表者会 ●家族会
11月	●地域防災拠点への避難訓練（ホーム） ●小山町地域防災訓練（にじいろ） ●歯科医師による摂食指導（ホーム） ●八景島シーパラダイス外出活動（ホーム） ●みなとみらい外出（にじいろ） ●緑図書館にて10展会（ホーム） ●若葉台特別支援学校で卒後の暮らしについて（ホーム） ●即興的ダンスのワークショップ11月・1月・2月（ホーム）	●事業委員会・運営委員会・理事会

1 2 月	●山下地域ケアプラザアート展・ポッチャ交流会 ・販売参加（にじいろ） ●「これってアートなの？展」実施（ホーム） ●歯科医師による歯石除去（ホーム）	●各委員会・各グループ活動計画反省 ●横浜市運営指導（ホーム）
1 月	●成人を祝う会（ホーム・にじいろ） ●利用者・家族との個別面談実施（～3月）	●家族会 ●各委員会・各グループ活動計画 ●将来計画策定委員会分科会（在宅）
2 月	●特別支援学校の引継ぎ実習生受け入れ ●避難訓練実施（ホーム）	●臨時理事会 ●内部研修 障害者虐待について
3 月	●歯科医師による摂食指導（にじいろ） ●ハートフルコンサート（にじいろ） ●歯科医師による歯石除去（ホーム）	●事業委員会・運営委員会・理事会 ●将来計画策定委員会分科会（GH） ●将来計画策定委員会全体会

②みどり福祉ホーム

【特記事項】

上菅田特別支援学校を卒業した男性1名を4月に新入利用者として受け入れ、日中活動利用者は合計17名になりました。また、高等部3年生の実習生2名を受け入れ、上菅田特別支援学校1名・若葉台特別支援学校1名（いずれも女性）の卒業生が2025年4月よりみどり福祉ホームの利用者となりました。12月に中学3年生（2名）の体験実習を受け入れました。

活動は、昨年度と同様に曜日ごとに活動を概ね固定化、同じ活動を繰り返すことで、積み重ねた経験により利用者主体の活動になることが狙っています。ひとりひとりのペースで活動ができるよう、これからも継続した活動を行っています。工賃作業として、年2回徳恩寺へ商品の納品・緑土木事務所より委託を受けた月1回の公園清掃・ここ数年お付き合いのあるフォトラファアの方から自撮りコーナーの飾りつけの仕事の依頼を受け制作を行いました。10月末に十日市場近隣の団体と共催で行われるハロウィンイベントが開催されました。天候に恵まれて、昨年度よりも多くの地域の方が参加し、利用者もスタンプラリーに参加したり来場者対応をする機会となりました。11月に久し振りの外出活動で八景島シーパラダイスに行きました。魚を見たり、乗り物に乗ったり、海鮮丼を食べたり、ホームを離れ大いに楽しむ人や少し不安になる人もいて、それぞれが普段とは異なる体験を積むことができました。12月に『コロはずむアート展』の関連企画『これってアートなの？』の展示をみどり福祉ホーム内で行いました。障害者週間イベントの一環として十日市場地域ケアプラザで行われる『10展会』に作品を出展しました。これからも、利用者が地域で活躍する支援を大切にしていきたいと考えています。

利用者の体調面では、1名が胃腸造設手術を行い、日常的に医療的ケアが必要な状態になりました。食事は口から摂るのですが、不足分の水分のみ3号検定を受けた職員が対応しました。家族から看護師が常駐し体調不良時のきめ細かな対応が可能な通所先（にじいろ）への通所希望あったため、2024年3月みどり福祉ホームを退所し、2024年4月よりみどり福祉ホームにじいろに通所することになりました。1月～3月には利用者・ご家族が安心できるように、職員と当該利用者がにじいろに訪問したり職員間で支援の引継ぎを行いました。

利用者の加齢や疾病などによる状態の変化やご家族の体調の変化など、これからも起こりうることです。法人として、利用者やご家族の気持ちに寄り添った支援をしていくことに変わります。そのためにも、日頃から計画相談や各種事業所との連携や、なにかあった時にご家族が相談しやすい関係作りを大切にしていきたいと考えています。

○事故・ヒヤリハット報告について

- 事故 2件 走行中の物損事故：送迎中に左脇ポールに左後方の車体が接触する。利用者はケガなし
服薬忘れ：臨時薬を飲み忘れる
- 苦情 1件 送迎車と歩行者接近による苦情
横断歩道付近にて、送迎車と歩行者が接近。ドライブレコーダーにはドライバーの暴言が残っており、ドライバーには厳重注意する。歩行者からは苦情の電話があり謝罪する。
- ヒヤリハット 5件 服薬忘れ 食形態を間違えて提供 書類の誤配 利用者の転倒（2件）

○利用実績・報告

- 定員：20名 在籍者数：17名（内、他事業所に週2日併用利用者1名）

●利用状況

月	活動日	月利用者数 合計	在籍者数	一日平均 利用者数	利用率
4月	21日	329名	17名	15.6名	91.7%
5月	21日	323名	17名	15.3名	90.0%
6月	20日	320名	17名	16.0名	94.1%
7月	22日	346名	17名	15.9名	93.5%
8月	21日	326名	17名	15.7名	92.3%
9月	19日	290名	17名	15.2名	89.4%
10月	22日	353名	17名	16.0名	94.1%
11月	21日	321名	17名	15.2名	89.4%
12月	20日	300名	17名	15.0名	88.2%
1月	19日	299名	17名	15.7名	92.3%
2月	18日	281名	17名	15.6名	91.7%
3月	20日	323名	17名	16.1名	94.7%
合計	244日	3,811名	17名	15.6名	91.7%

③みどり福祉ホームにじいろ

【特記事項】

にじいろが立ち上がり3年たち、4年目はホームを3月に退所した利用者1名を受け入れ16名でスタートしました。昨年度に気管切開を行った利用者2名が安全に過ごせるように医療、計画相談、ご家族と連携して行い、安定して通所に通えました。しかし、うち1名は8月末に横浜療育センターへの入所となり退所しました。また、10月に体調不良にて入院し手術を行った利用者が医療的ケアになり、12月に退院したものの在宅生活を安定して送っています。通所に向けて引き続き関係事業所と連携をとっていきます。また、12月末にみどり福祉ホーム・みどり福祉ホームにじいろに20年通所されていた女性利用者がグループホームにてご逝去されました。長年みんなとともに過ごし楽しい思い出とともに、まだそばにいたような感じです。3月の誕生月には事業所内で偲ぶ会を行いました。

活動では地域へ根差した活動を目指して積極的に外に出ていこう！を掲げ活動をしてきました。日常的に無人販売所へ行ったり地域のお店でのお買い物などを行いました。作業では公園清掃、ポストカードづくり、缶バッチづくりなど、余暇では地域へのお買い物やアート展創作活動お花見、こいのぼり見学、七夕、すいかわ

り、ながしそうめん、フルーツ祭りや利用者の誕生会ではご本人の好きなことでハワイアンやクラブ風の雰囲気を楽しみました。また、各利用者が係活動として園芸、地域交流、広報など行い自分にあった役割を楽しみながら行っています。8月、12月には賞与が支給されました。10月～11月にみなとみらい（エアキャビン、北沖タワー、YAMAHA、コスモワールド、ワールドポーターズ）の各自希望の場所へ少人数日帰り外出に行ってきました。

地域交流では近隣への周知や地域の事業所との連携を図りました。広報では、作成段階から利用者を行い、地域への配布などを利用者で行い顔の見える関係を進めています。また、自立支援協議会、社会福祉協議会に参加して地域の団体との連携を図り赤い羽根共同募金にも参加しています。7月には若葉台特別支援学校保護者に向けて利用者主体で卒業後のくらしについての講演を利用者5名にて行いました。

11月にはコロナは必ずアート展への団体作品を出展し、センター北に新しくできたボッシュホールの展示は全員で行きました。また、山下地域ケアプラザのつながるアート展覧会や販売イベントに参加しました。

防災では地域防災拠点までの避難訓練を行い、11月に町内会の防災訓練にも利用者・ご家族・職員数名で参加しました。

法人内で医療的ケアが日常的に必要なになったり、ケアが重度化するケースも増えてきて、適宜法人内異動や医療との連携などを行っています。2025年度も医療的ケアのある利用者が1名新たに学校を卒業して仲間になりました。今後も利用者、家族に寄り添った中で、安心して活き活きと過ごせる場所として、利用者さんの良い所をたくさん引き出していければと考えています。

※今年度は若葉台特別支援学校より3名、上菅田特別支援学校より1名の実習生を受け入れました。

○事故・ヒヤリハット報告について

・事故1件

・支援者が車の不具合の確認中に車に右足を引かれる。坂道でギアがドライブに入っていたまま、サイドブレーキがきちんと引かれていなかったため。⇒停止時には必ずパーキングに入れるなど基本的操作確認を運転手とする。

・ヒヤリハット 10件

紛失2件（事業所アイパッドを利用者のかばんにいれたままにして持ち帰る翌日みつかる）

（携帯電話をヘルパーが自宅に持って帰ってしまう。翌日にわかる）

⇒備品の退勤前の確認を再度徹底していく。

パソコン破損1（お茶がこぼれてパソコンにかかってしまう）⇒精密機器の近くには水分等はおかない

軽微な負傷3（外出時に腕が日焼けで赤くなってしまう、車椅子移乗時マット上に倒れこむ、胃ろうチューブクランプ閉め忘れの為胃残が逆流でこぼれる）

⇒支援方法の再度確認、衣類等外出時天候確認

軽微な事故1・軽車両敷地内にて室外機にぶつける。

その他3（利用者のズボンが車椅子上でずり下がっていた、昼食をトレーごとおとし、朝事業所のカギを忘れて他ホーム職員にカギ借りる）

・引き続き軽微でも将来的に大きな事故につながる恐れがある事案を見据えてヒヤリハットを意識あげていくようにしていきます。

○利用実績・報告

●定員：20名 在籍者数：16名

●利用状況

月	活動日数	在籍者数	延利用者数	一日平均 利用者数	利用率
4月	21日	16名	279名	13.2名	82.5%
5月	21日	16名	275名	13.0名	81.2%
6月	20日	16名	265名	13.2名	82.5%
7月	22日	16名	292名	13.2名	82.5%
8月	21日	16名	273名	13.0名	81.2%
9月	19日	15名	248名	13.0名	81.2%
10月	22日	15名	249名	11.3名	75.3%
11月	20日	15名	237名	11.8名	78.6%
12月	20日	15名	230名	11.5名	76.6%
1月	19日	14名	192名	10.1名	72.1%
2月	18日	14名	186名	10.3名	73.5%
3月	20日	14名	213名	10.6名	75.7%
合計	243日	15.1名	2939名	12.0名	79.4%

※並行利用者1名月4回程度、1名年度当初退院後のため通所週に2回程度その後8月入所により退所、

1名10月に入院し12月退院年度内自宅静養、12月末に1名利用者逝去、1月脳梗塞により1名利用者

自宅静養その後復帰

3. 生活支援部

全体と今後

事故が1件。一時ケア終わりの送迎時、利用者が同乗している送迎車が追突事故を起こしました。幸いけが人はなく、相手の方とも保険会社を通し対応を行い、統括所長が謝罪しました。運転を行っていたヘルパーとドライブレコーダーの映像を複数人で見えて事故の検証を行いました。事故の直接的な原因はわかりませんが、今後、すべての送迎車にドライブレコーダーを設置し、定期的に運転映像を複数人で確認することを決めました。運転を行ったヘルパーに、運転業務再開のプログラム（常勤職員が助手席に乗っての見極めなど）を提案しましたが、事故映像をみてから運転に自信が持てないと、運転業務を行わないことになりました。

① 一時ケア

未就学児・学童児・おとなの障害がある方を対象に平日の夕方、土曜日の一時ケアを中心に行いました。レスパイトや家族の通院、兄弟児の行事などの理由が多く、緊急時は法人全体で優先的に対応しました。新規登録、利用の問い合わせは数件あり、ケースバイケースで対応しています。定期的な利用ニーズは増え続けていて、予想より多い実績となりました。中にはほかの日中活動利用者が一時ケアに残る様子を見て、家族に一時ケアを利用してみたい、次はいつと家族に聞いているという話を家族から聞くこともありました。不安定な家庭状況を一時ケアで定期的なレスパイトを行うことにより、緊急のショートステイニーズを減らしているという感覚を持っています。機能強化型活動ホームの在り方検討の中でも、一時ケア、ショートステイへの対応がより評価を増す傾向となりそうです。数だけでなくニーズを精査し対応を行っていきます。

② ショートステイ

原則、緊急の理由の相談・受け付けを行いましたが、緊急のケースは、近隣の法人型地域活動ホームやショートステイセンター、入所施設で対応でき、みどり福祉ホームのショートステイにつながるケースはありませんでした。計画相談事業所との連携で、みどり福祉ホームと家族だけで抱え込むケースが少なくなっています。

③ 余暇活動

参加利用者、余暇活動関係者の高齢化と社会情勢の変化で予定していた余暇活動の回数が激減しています。

④ 2024年度 事業実績

a. 一時ケア 2019年度計 398回 2020年度計 238回 2021年度 349 2022年度 461回 2023年度 629

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	60	60	72	69	58	60	60	53	59	57	54	64	726

b. ショートステイ 2019年度計 0回 2020年度計 0回 2021年度 0回 2022年度 0回 2023年度 0回

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

c. 余暇活動 2019年度計 50回 2020年度計 26回 2021年度 26回 2022年度 20回 2023年度 22回

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	2	2	2	1	0	2	2	2	2	1	0	1	17

4. 地域交流部

① 地域交流

- ・8月と1月の年2回「みどり福祉ホーム通信」の発行をしました。多くの地域の方に手にとってもらい、当事業所のことを知ってもらうツールとして活用しています。みどり福祉ホーム通信は、地域の障害福祉事業所にデザインと発送を委託し、職員の負担を減らし障害のある方の仕事づくりに貢献しています。
- ・みどり障がい児者支援ネットワーク・緑区自立支援協議会等に参加しました。
- ・「ココロはずむアート展」では、みどり福祉ホームでは個人・にじいろでは共同制作で出展しました。巡回している会場となった事業所やスペースに実際に足を運びました。12月には「これってアートなの？」展をみどり福祉ホームにて実施し、近隣の施設も出展しました。3月にはボッシュホールにて「作家を語る・作家が語る」にホームから利用者が登壇者として参加しました。

【みどり福祉ホーム】

フォトグラフィアの方から定期的に制作依頼を受けており、利用者の作品が自撮りコーナーの飾りになっています。10月にはハロウィンイベントが開催され、多くの地域の方との交流の場となりました。11月には地域防災拠点への避難訓練に職員が参加しました。また若葉台特別支援学校の卒業生が学校にて「卒後の暮らし」について在校生に話をしました。その他、障害週間イベントのひとつとして、十日市場町地域ケアプラザ1階にて「10展会」を開催し利用者の作品を2週間展示し、緑図書館を利用する方を始め、多くの人に見てもらいきっかけになりました。

【にじいろ】

今年度のココロはずむアート展の出展に関して「にじモスラ」という団体造形作品を出し、各展示施設に見に行って交流をしました。新しく3月にできたボッシュホールにみんなで展示を見に行きました。

山下地域ケアプラザでは11月につながるアート展の出店やポッチャやおにぎりをみんなで作るイベントなどに定期的に参加させていただいています。また若葉台特別支援学校の卒業生の利用者が、卒業校を訪れ「卒後の暮らし」についての講演を在校生保護者に向け行いました。

日常活動の中で地域への散歩や買い物を積極的に行う地域交流部などでは、利用者と直接関われる機会を増やすとともに事業所の認知を広げるようにしました。地域の防災訓練等は参加希望の利用者とご家族、職員で参加できました。引き続き地域へ根付いていけるように活動に取り組んでいきます。

② 訓練会支援

さくらんぼ会は、合計5つのグループが訓練室や地域交流室、調理室を使って学齢前児の療育活動や、家族の勉強会、特別支援学校等に学齢児の療育活動や、放課後支援を行っています。

新たに活動日を土曜日に設け多くの子供や親が参加しています。